

わかぐさ

W A K A K U S A

伸びよう伸ばそう青少年 ～心豊かな青少年を育てるために～



〈題名〉紫の森 東中学校 3年 ^{あおき}青木 ^{こと}琴 さん



発行 ≫ 青少年育成稲敷市民会議
事務局 ≫ 稲敷市教育委員会
生涯学習課内
TEL 029-892-2000 (代)
会員数 ≫ 7,776世帯 (令和6年2月現在)

令和5年度
第17回

稲敷市

青少年の主張大会

ダイジェスト



令和5年11月19日(日)、江戸崎中央公民館において、第17回稲敷市青少年の主張大会が開催されました。

小学生4名、中学生4名、高校生2名、計10名が日常生活の中で感じたことや考えていること、自信と誇りを抱き将来に向かっていくことなど、それぞれの思いを堂々と力強い主張を繰り広げました。

発表者の胸元には、江戸崎総合高等学校グリーンテクノ系列の生徒お手製のコーサージュと、大切に育てたポインセチアがステージを明るく飾りました。

未来を担う青少年の声をお聞きください

第17回稲敷市青少年の主張大会

主催：青少年育成稲敷市民会議



小学生の部

1 充実した生活を
送るために

沼里小 六年 清宮 愛

五年生、六年生と大きくなり、同級生の男子とのジャンダー差について、いつも意識してしまいます。男女関係なく、みんなで仲良く楽しみたいと思っていますが、大抵学校でみんなと遊ぶときは、ドッジボールや鬼ごっこなど、限られた遊びです。投げて走っても差を感じるドッジボールや鬼ごっこへの参加は、少しためらいを感じてしまいます。

そこで、みんなで楽しめる活動にはどんなものがあるのか考えてみました。例えば、表現運動です。ダンス表現は、経験値は関係しますが、ジャンダー差はあまり関係ないように思えます。男も女も関係なく、みんなで集まり、休み時間になったら、とても楽しいだろうなと感じました。他に、ゲートボールがあります。

私は、次の二つのことを実践したいと思います。一つめは、自分自身でみんなが楽しめる活動をもっと調べたり、考えたりしようと思います。二つめは、自分た



ちのこのような思いをみんなに伝え、抵抗感や気持ち悪さを配慮した活動で、みんなに楽しんでもらうことの大切さを訴えたいと思います。

2 小さな一歩から

高田小 六年 稲箸 祐星

環境汚染は、地球のいたる場所で行われています。昨年、海の環境問題について調べたところ、年間約八百万トンのゴミが海に捨てられている現状を知りました。その多くはプラスチックゴミであり、日本は、海へのプラスチックゴミの年間流出量が、世界の中で上位だということが分かりました。このままでは、二〇五〇年には、海の生き物の量を海洋ゴミの量が上回るという予測もあります。ぼくは、衝撃を受けました。

人々が、安心してこの地球で暮らし続けていくために、二〇三〇年までに達成しなければならぬ目標、SDGsが定められました。目標を達成するために、ほくのできることを。それは、呼びかけていくことです。そして、行動力を持つことです。これからは、サッカーチームの監督がしていたゴミ拾いなど、積極的に行動できるよう意識していきます。

今後、ぼくたち一人ひとりができることを考え、行動することが、SDGsの十七の目標を達成するための第一歩となるのではないのでしょうか。まずは、小さな一歩から、始めていきましょ。

3 笑顔で明るく
生きられる未来

桜川小 六年 高須 莉那

母親による虐待事件のニュースを見て私は、お母さんたちがなぜ自分の子供を虐待してしまうのかを調べてみました。それは、共働き世帯の増加と核家族化が進んでいることが一因だそうです。また、近所の人たちとの交流がないことや子育て世帯が少なく孤立しやすいことなども原因になっているということです。

親のイライラやストレスが原因なら、それを解決するために、どんなことがあるのかと思いました。学級で「ストレスを解消する方法」についての学習がありました。それには、自分の好きなことをしたり、だれかに悩みを聞いてもらったり、呼吸法やセルフタッチをしてリラクセスしたりするなどの方法があります。

また、稲敷市の「児童相談所虐待対応ダイヤル『189』へ」という取り組みや茨城県では、「茨城県子供を虐待から守る条例」をもとに「オレンジボン運動」もあるそうです。



将来、私が親になったとき、児童虐待がなくなり、子供も親も生きている人たちがみんなが、笑顔で明るく安心して生活できる未来を作りたいです。

4 私たちができること

あずま西小 六年 藤ヶ崎 留花

私は、四年生の頃から、世の中で苦しんでいる人や困っている人たちの役に立ちたい、何かできることはないかという気持ちを持つようになりました。そのきっかけは、当時見ていた医療ドラマです。

いろいろ調べているうちに「ヘアドネーション」という活動があることを知りました。それを知ったときに驚きとともに自分ができるかと不安になりました。でも、病気で辛い思いをしている人たちの助けに少しでもなればと思い、挑戦することにしました。当日、美容室に行ってみると、五十センチメートルの髪の毛を切ることができました。実際やってみるととても達成感がありました。

他にも、できることはないかと探しているときに、私はとある動画を見つけました。それは海外で行われている癌と闘う子どもたちに毛糸で編んだウィッグを届けるプロジェクトでした。

この二つのプロジェクトを通して、私にもできることがたくさんあることが分かりました。皆さんも、「私たちにできることは何だろうか」と自分の心に問いかけてみてください。

高校生の部

9 行動することの大切さ

江戸崎総合高 二年 黒田 龍毅

もし、みなさんの目の前に倒れている人がいたら、あなたはどうしますか。

私が小学生だったある日、家族と日光東照宮に行きました。階段を上がっていると横で倒れている人がいました。私は、何をしたらよいかわからず、動くことができませんでした。しかし、少し遅れて登ってきた母は、「大丈夫ですか」と声をかけ、当たり前のように手を差し伸べて、階段を降り、救急車を呼んで倒れている人を助けたのです。

そして、私が中学生になったとき体育祭で、熱中症のため一人の生徒が倒れてしまったのです。小学生のときのことを思い出し、あのときの助けなかった自分から変わりたいと思いました。すると、倒れている生徒に手を差し伸べ、保健室に連れていくことができました。

困っている人、助けを求めている人は必ず身の周りにいます。大切なのは、そういう



他人に気づき、手を差し伸べられるかだと私は思います。あなたの一声で、あなたの少しの行動で救われる人がいるかもしれないかもしれません。そんな行動ができる人が増えてほしいと願います。

10 私が私でいられるのは

江戸崎総合高 二年 中村 颯夜

中学生の頃、セクシャルマイノリティである私は、自分らしく生きられないことがこんなにも苦しく、悲しく、辛いことなのかと思っていました。

しかし、高校ではセクシャルマイノリティである私を受け入れて理解してくれる人が多くいます。最初は驚いたり、少し怪訝な顔をしたり、偏見を持っていたりする人はいましたが、当たり前のように接してくれる人が増えました。同性で付き合っていることに対して理解してくれる人が周りに多くいる環境は、私にとって心の支えになっています。

私が私でいられ、私が私でいたいと思えるのは、ありのままを受け入れてくれている周りの人々の理解のおかげです。



あなたはあなたらしく生きていくのでしょうか。誰かの価値観を押し付けられて苦しんでいないでしょうか。誰かのものさしで測られた善し悪しに不満はないでしょうか。人の数だけ性に対する考え方があり、多様性を受け入れる社会が広がり、自分らしくいることに苦しみを覚える人が少なくなっていくてほしいです。

なお、今回は、空港周辺7市町から55名の生徒による「第29回成田空港周辺中学生英語スピーチコンテスト」が開催されました。桜川中学校3年生の松田実優(まつた みゆ)さんが厳しい審査を通過し、スピーチの部で最優秀賞を受賞され、主張大会の舞台でも、素晴らしい英語スピーチを披露しました。

- 主張大会で発表した作文の全文が掲載された作文集が、市役所庁舎、公民館、図書館にあります。ぜひ、ご覧ください。
- 市役所庁舎、公民館についてはご自由にお持ち帰りください。



令和5年度 第17回 稲敷市 青少年の主張大会



感想文

令和5年11月19日(日) 江戸崎中央公民館

青少年の主張大会を聞いて

富田雛梨乃

私は、今回初めて「青少年の主張大会」を観望しました。児童・生徒の皆さんが、ステージに立ち、自分の考えを自分の言葉で伝える姿は、大変立派で感銘を受けました。青少年ならではの視点と柔軟な考え方は、大人になつて忘れてしまっていた社会に対する疑問を思い出させてくれました。同時に、青少年の皆さんが直面している問題が多岐に渡っていることに衝撃を受けました。これからの社会の担い手となる青少年の皆さんが、将来に対して希望を抱けるよう、地域の一人一人が、社会問題に真摯に向き合い、青少年の声を傾けられるようにしていきたいです。

「読書の魅力」を 読んで

矢崎 克実

読書が好きというのは私も同じです。自分に自信が持てない、頑張っている友達が羨ましく思ったりしたことと梓さんと同じだ

なあと思いました。でも、二冊の本から、自分の生き方を考えられるってすばらしいことだなと感心しました。人間には欲があります。それを自分の生き方に生かせるって思った梓さんは、これからもっともっと大きな成長をしてくれると思います、うれしくなりました。これから、中学生・高校生・大学など、成長が楽しみです。

青少年の主張大会に参加して

本橋 正勝

ここ何年間か青少年の主張大会に参加してみ、自分の子供の頃と比べて今の若者はなんとすっかりした考えを持っているのだろうと驚いている。私自身小中学生の頃は勿論、高校生になつてからでさえ確固たる自分の考えを持つていたか定かでない。多分無かつたと思う。今回発表された方々の問題意識のとらえ方、それをいかに良い方向にもつていくかの分析、発表手順の組み立て方など、あえて難しく評価をしてみるにつけ只々驚き「すばらしい!」の一語に集約されています。心の片隅にほんやりと

影を落としていた日本の将来を託すべき若者への不安感や完全な心算に払拭された心境です。また教育委員会指導室川村さんの発表後の講評もまた的確に分析され例年通りすばらしいものでした。追加で発表された英語での弁論大会優勝者松田さんに対しても大変驚き惜しみない賛辞を贈ります。今回もまた心にしみた大会でした。関係者の労を多としたい。

主張大会を傍聴して

岡田 芳夫

緊張感のある会場で発表された皆さん、大変「苦労様」でした。個々人の日常生活に於いて「思っていた」ことや「感じていた」ことを探究しながら前進させ納得のできるところまで取り組まれたことがとても素晴らしいと思います。

発表会で経験した「友達」家族「先生」の皆さんに感謝を忘れず、更なる充実感を味わえるように努力して欲しいと願うばかりです。

素晴らしい発表会でした。有難う…

青少年主張大会から 学んだこと

宮本 栄子

今年、約三十年ぶりに青少年の主張大会を見学させていただきました。

子どもたちが、一生懸命に自分の思いを主張する姿に、とても感動しました。同時に、自分自身を振り返る貴重な時間を与えてもらいました。

中でも、「小さな一歩から」という主張を聞いた時、すばらしい親子だなと思いました。忙しく子育てをする中で、自らが子の手本となる母と、母の姿を見て、自分も環境問題に目を向けて勉強したり、サッカーチームの監督とゴミ拾いをしたりしながら地球の未来について考える少年の姿は、とても頼もしく感じました。

私は地球のために、日々、何かできているのだろうか。私たちのように、未来の地球のことを深く考えずに生きてきた一昔前の世代こそ、環境問題について積極的に取り組んでいくべきだと感じました。今回は、貴重な機会を与えていただき、ありがとうございます。

第9回

稲敷市子ども会育成連合会
青少年育成稲敷市民会議

ボランティア清掃活動

たくさん
捨ったよ!



令和6年2月10日(土)、今回はあずま生涯学習センターに集合し、新利根川近くの清掃活動を実施しました。昨年に比べ約2倍の200名近い親子の参加者があり、少々風の冷たい開会式となりました。



子ども会の澤邊会長のご挨拶をいただき、事務局からの注意事項が済むとA・B・C・Dと4つのルートに分かれ、分別ゴミ袋を持ち、歩き始めました。野球場を歩いていると大谷選手から届いたグローブをはめてみた嬉しそうに言う子。「どうしてゴミを捨てるんだろう」と言ってタバコの吸い殻やお菓子の空袋を拾っている子。

東地区は米どころなので、見渡す限り黒々と田んぼが耕され実りの季節へと動き出したようだ。沢山の子どもの声を聞きながらのゴミ拾いではありましたが、この自然の中でのボランティアを通して普段では出会えない小学校の児童達の交流の場となり、未来の稲敷市への明るい希望が見えた気がしました。ゴミ拾いに限らず時々こんな出会いが出来たら何か素晴らしいことが起きるのではなからうと、さきがけの野の花を愛でながら思いました。

沢山のゴミが集まり、市民会議の和田会長のご挨拶を以て無事閉会となりました。参加された方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(篠田)



令和5年度

あいさつ運動等活動報告

青少年育成稲敷市民会議では、「あいさつには“あい”がある」をテーマに市内小中学校であいさつ運動を実施しております。市内の各団体にもご協力いただき、今年度は6月と11月に延べ150名を超える方が参加しました。

「あいさつができる」ということは、人と人とのつながりのスタートでもあり、青少年が健全に育成するために必要不可欠な基本です。今後も継続して事業を行うにあたり、みなさまの益々のご理解とご協力をお願いいたします。



あずま北小学校



新利根小学校



桜川小学校



江戸崎中学校

青少年育成稲敷市民会議では、青少年の健全育成を目的とした4種類の啓発のぼり旗を作成し、10月に市内園・小・中・高校へ配布しました。

「あいさつ・声かけ運動」 「大人のマナーアップ運動 ー大人が変われば、子どもも変わるー」



篠田 啓子(広報部長)
和田 克典
糸賀 妙子
寺崎 久美子
白田 京子

春よこい 早くこい 笑顔をつれて

これから子ども達をさらにあたかな眼差しで包み込み、一声を惜しまず掛けてやってください。

想定外のことが最近では当たり前のようになり、心が折れる日が続きますが、心の中にブレイブ(勇氣)という言葉をお守りのように持って、前に進んで行きたいと思えます。

わかくさの発行に関わってから何年経つのだろう。以前の広報紙を読み返す。目立つことのない活動ではありましたが、沢山の部員の方々にはお世話になりました。青少年育成稲敷市民会議では運動部であり、広報紙にもご協力を頂いていた濱田純男氏が昨年、急にお亡くなりになりました。なかなか触れられずにおり、心よりご冥福をお祈りいたします。想定外のことが最近では当たり前のようになり、心が折れる日が続きますが、心の中にブレイブ(勇氣)という言葉をお守りのように持って、前に進んで行きたいと思えます。

WAKAKUSA
2024.03 No.35

編集後記

